

「保健室、いつもきれいやな。」

ずっといたくなる保健室

京都市伏見区にある日野小学校は、宇治市のすぐ近くにあり、児童数約580名の中規模校です。保健室は児童出入口のすぐそばにあります。

明るく広々としていて、必要なものが使いやすく収納された保健室。快適な空間づくりのヒントを探りました。



☆気になる部分は見過ごさない

以前は、保健室内には段差があり、児童や教職員がつまずくことがありました。

そこで、段差を無くすために板を敷き詰め、その上から白っぽい木目調のマットを敷きました。すると、部屋全体が明るくなり優しい雰囲気になったそうです。

マットには厚みがあり、冬でも温かさを感じられました。重い物を置くときは、マットに型がつかないように床に触れる面にフェルトを貼るなど、永く美しく使えるように配慮されています。



古くなったカーテンやスクリーンの布も、自ら縫製され、明るく落ち着く色で統一されていました。

余った生地で、ベッド下収納の目隠しも作成されていました。

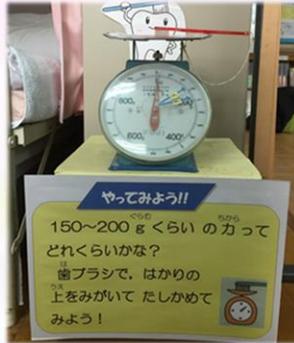
座る部分が裂けたイスもかわいらしい生地でカバーをされていました。



☆見て 触れて 学べる 掲示物

子どもたちは、仕掛けがある掲示物が大好きです！
子どもたちの「なんだろう？」をくすぐる掲示物を紹介します。

『どれくらいのかでみかくといいのか
たしかめてみよう！』



『いえるかな?からだのなまえ』



『ウイルスは どれくらいとぶの?』



伸びた糸はトイレトペーパーの芯に巻き取られる仕組みになっています。

『くつひも むすべるかな?』



蝶々結びの練習ができます。

☆あると便利なもの

布団を干す場所の確保が難しい
校内事情から、布団クリーナーを
購入しました。



ストーブの周りにはゲージが設置して
あり、子どもたちの火傷を防止できます。



☆使いやすく工夫する

机いす高さ調整定規



ホームセンターで木材を購入し製作されました。シール専用の台紙に規格を印刷してあります。とても使いやすそうでした。

学年をひもの色で区別したり、背表紙に線を足して組を表わしたり、必要なものがすぐに棚から取り出せます。

B4サイズの健康観察



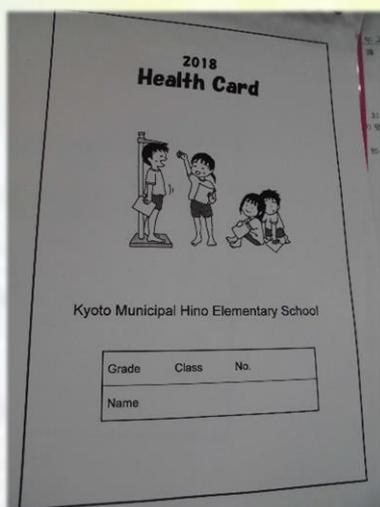
携帯用救急バッグ



たくさんの携帯用救急バッグがあります。

複数の学年の校外学習が重なっても対応できます。

英語版の諸様式



担任の負担軽減のため、健康の記録への記入については、マクロを組んで、データが差し込み印刷できるようになっています！

1・2学期は普通紙に印刷し配付、3学期末には上質紙に印刷して保護者に渡されています。英語版の諸様式の文章は、日本語教室の教員に協力してもらって作成されました。

☆安心できる空間づくり

<絵本の配置>



LGBT 関連の絵本や書籍は、他の絵本と別の場所に置き、プライベートなスペースでゆっくり読むことができるように配慮されています。



<日本の行事・季節感を感じる置物>



いつも清潔で過ごしやすい空間を保っておくことは、子どもたちの心の安定にもつながります。

保健室に来室する子どもの中には「保健室はいつもきれいな」「ここで勉強したい」と言い出す子もいるそうです。

子どもたちが『大事にされている』ことを感じ取り、心のほころびまで
繕われるような、いつまでもいたくなる保健室でした。